



低炭素杯 2013

報告書

2013年3月

低炭素杯 2013 実行委員会



低炭素杯とは…

早期の低炭素社会への移行のために、全国で様々な草の根の活動が展開されています。

各地で活動する学校・有志・NPO・企業などの方々が、そのモデルとなる活動のプレゼンテーションを通じて、様々な方々との交流を深め、学び合い、連携の輪を広げていくのが「低炭素杯」です。

低炭素杯 2013 では、全国からエントリーされた 1371 団体のうち、厳しい審査を経て選ばれた 40 団体から日本一を決定しました。



〔日 時〕 2013 年 2 月 16 日（土）13：00～17：45

2 月 17 日（日）13：00～16：30

〔会 場〕 東京ビッグサイト会議棟 7 階（国際会議場）

〔主 催〕 低炭素杯 2013 実行委員会（委員長：小宮山 宏）

〔共 催〕 株式会社 LIXIL、一般財団法人セブン・イレブン記念財団、一般社団法人地球温暖化防止全国ネット

〔特別協賛〕 キリン株式会社、日本マクドナルド株式会社、公益財団法人 損保ジャパン環境財団

〔特別協力〕 ブリティッシュ・カウンシル、株式会社オルタナ、特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク、

木原本木材店（北はりま小径木加工センター）、日報ビジネス株式会社

〔後 援〕 環境省、プラチナ構想ネットワーク

〔事務局〕 低炭素杯 2013 実行委員会事務局（一般社団法人地球温暖化防止全国ネット）

共 催

LIXIL
Link to Good Living

一般財団法人
セブン・イレブン記念財団

JNCA
Japan Network for Climate Change Actions

特 別 協 賛

おいしさを笑顔に
KIRIN

M

公益財団法人 損保ジャパン環境財団

特 別 協 力

BRITISH COUNCIL

alterna

WIN
Winter Cluster Network

木原本木材店
北はりま小径木加工センター

日報ビジネス 株式会社

低炭素杯 2013 フォトレポート

会場▶東京ビッグサイト会議棟 7階



受付の様子



2月16日(土) プログラム

13:00～13:30 開会式



▲総合司会の櫻田彩子さん



▲開会式の様子

2月 16日(土) プログラム

13:30～17:45 全国大会による決勝戦
ファイナリストによるプレゼンテーション



▲栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班

各団体が4分で取り組みを紹介。
ステージの上ではパワーポイント
によるプレゼンテーションを中心に、寸劇なども展開されました。



▲大葛青若会



▲ソーラーバイクレース大会実行委員会



▲株式会社ナチュラルファームシティ
農園ホテル



▲荒川区



▲株式会社一条工務店



▲岐阜県立恵那農業高等学校



▲岐阜市地球温暖化対策
推進委員会



▲奈良交通株式会社



▲京都府長岡京市立神足小学校



▲阿南高専 生態エネルギー研究会



▲ジャパンフォーレスト株式会社グループ



▲レモンガス株式会社



▲和賀製薬店



▲特別ゲスト（高月 紘さん）



▲特別審査員のコメント



▲企画・審査委員会による審査

2月17日(日) プログラム

10:00～11:30 企画・審査委員会による表彰団体の選考



▲選考の様子 1



▲選考の様子 2

13:00～15:00 特別シンポジウム パネルディスカッション



▲ディスカッションの様子 1



▲ディスカッションの様子 2

2月16日(土)・17日(日) ロビー展示

- ・低炭素杯 2013 トロフィー制作写真展
- ・ハイムーン(高月紘さん) 環境マンガ展



▲トロフィー制作写真展



▲環境マンガ展

15:30～16:30 審査結果発表・表彰式



▲LIXILより賞の授与



▲セブン-イレブン記念財団より賞の授与



▲ブリティッシュ・カウンシルより賞の授与



▲オルタナより賞の授与



▲気象キャスターネットワークより賞の授与



▲特別審査員賞（日本マクドナルドより副賞）の授与



審査員特別賞の授与▶

2月17日(日) プログラム

15:30～16:30 審査結果発表・表彰式



▲金賞（地域活動部門）京都炭素貯留運営委員会



▲金賞（企業活動部門）レモンガス株式会社



▲金賞（ソーシャルビジネス部門）鹿児島大学 Sustainable Campus Project (SCP)・JAグリーン鹿児島



▲金賞（学生活動部門）岐阜県立恵那農業高等学校



▲グランプリ トロフィーの授与（野木沢小学校のみなさんから）



▲グランプリ インタビューの様子



◀グランプリ 栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班

はじめに

次世代に向けた低炭素な社会を構築するため、低炭素杯は 2011 年に生まれました。学校・家庭・有志・N P O・企業などの多様な主体が全国各地で展開している地球温暖化防止に関する地域活動を報告し、学びあい、連携の輪を広げる「場」を提供してきました。3 回目となる「低炭素杯 2013」は、実行委員会（委員長：小宮山宏）を組織して準備を進めてきました。

2013 年からは、気候変動に関する国連枠組条約の京都議定書の第 2 約束期間が始まり、温暖化対策も新たな段階（ネクスト・ステージ）になりました。そのための次の一步とするために、全国から 1371 団体から選ばれた 40 団体が参加して「低炭素杯 2013」を平成 25 年 2 月 16 日及び 17 日に開催いたしました。

今年の低炭素杯トロフィーは、福島県石川町立野木沢小学校の 6 年生と協働して制作しました。東日本大震災と原発事故を乗り越えて卒業を迎える自分自身への贈り物とするために、地元の樹木（樹齢 100 年のモミジ）を使ったトロフィーの制作を行い、環境大臣賞グランプリ、金賞の受賞者に贈呈されました。

今年度は、株式会社 LIXIL 様、一般財団法人セブン・イレブン記念財団様をはじめとする多くの団体・個人の皆様の多大なご支援をいただき開催することができました。ご参加いただいた多くの方々に感動と元気を持ち帰っていただくことができましたことは、何よりご支援をいただいた皆様及びご出場団体のご関係者の熱意とご努力の賜物であったことは言うまでもありません。

心より感謝申し上げます。

そこで、皆様のご支援・ご努力に僅かでも報いるため、低炭素杯 2013 の総括や内容を可能な限りお伝えすることを目的に報告書を取りまとめたので、ご一読いただければ幸いです。

何とぞ、今後とも、ご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

低炭素杯 2013 報告書

目 次

◆はじめに	1
◆挨拶	4
実行委員会委員長 小宮山 宏	
環境副大臣 田中 和徳	
◆低炭素杯 2013 概要	5
実施体制	
ロゴマークの決定と表彰	
低炭素杯 2013 開催までの経緯	
低炭素杯 2013 プログラムの概要	
◆当日企画について	11
環境マンガ展	
トロフィー制作の経過と写真展	
◆表彰について	14
受賞団体一覧	
◆ファイナリストのプレゼンテーション（取り組み）	17
各賞受賞団体	
地域活動部門／企業活動部門／ソーシャルビジネス部門／学生活動部門	
企画・審査委員長の講評	
◆海外特別ゲスト報告	58
海外特別ゲストによるプレゼンテーション	
◆団体間交流会	60
◆特別シンポジウム「低炭素社会へ～世代を超える・つなぐ活動づくりのために～」	61
パネリスト報告	
パネルディスカッション	
◆全体総括	76
【資料編】	
◆実行委員会組織と事務局運営体制	78
低炭素杯 2013 組織図	
低炭素杯 2013 参加人数の内訳	
◆広報など実施一覧	80
当日来場者募集にかかる広報実施プラン	
環境省の報道発表資料	
低炭素杯 2013 実行委員会事務局の報道発表資料	
低炭素杯 2013 ウェブサイト	
広報リーフレット／プログラムパンフレット／ポスターによる広報	
共催企業・団体による広報	
主なメディアの掲載一覧：新聞・雑誌掲載など	
◆低炭素杯出場団体に対するアンケート結果	93
低炭素杯 2013 ファイナリストへのアンケート結果	
◆寄付一覧	97



Carbon Offset Certificate

カーボン・オフセット証書

2013年1月16日

低炭素杯 2013 実行委員会

東京都千代田区神田美代町 9-17

Low Carbon Cup 2013 Executive Committee

17, Kanda-machiro-Cho 9, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan

貴殿との間で締結した業務委託契約に基づき、カーボン・オフセットの手続きが完了したことを
下記に証明します。

Certified as below that you have completed the procedure of carbon offset on the basis of our consignment contract.

オフセット対象
Boundary

イベント会場の電力使用に伴い発生する CO₂ 排出量の一部

クレジットの種類
Credit Type

国内クレジット

クレジットの数量
Amount of Credits

2t-CO₂

クレジットの無効化方法
Invalidity type

国内クレジット管理システムの償却口座へ移転

オフセット行為の完了日
Completion Date of Offset

2013年1月11日

クレジット識別番号
Serial No.

00719-106 ~ 00719-107

プロジェクト名
Project Title

東日本大震災復興支援型国内クレジット
(広島県庄原市庁舎におけるボイラーの新設)

プロジェクト番号
Project No.

0719

プロジェクトタイプ
Sectoral Scale

木質バイオマス

プロジェクトの排出削減・吸収量
Amount of Reductions

206 t-CO₂

詳細については、添付「地球温暖化対策の促進に関する法律第34条
第2項における算定割合量の算出について(通称)」をご参照下さい。



株式会社イトーキ

大阪市城東区今福東1-4-12 〒536-0002

